

髑髏城の七人
風

装幀 烏井和昌

目次

髑髏城の七人
風
7

あとがき
183

上演記録
186

髑髏城の七人
風

●登場人物

捨てのすけ
捨之介

てんまおう
天魔王

むかいやらんべえ
無界屋蘭兵衛
ごくろうたゆう
極楽太夫

ひょうご
兵庫

がんでつさい
贗鉄斎

さざり
沙霧

さんご
三五

いそへい
磯平

まみあなじろうえもん
狸穴二郎衛門

はつとりはんぞう
服部半蔵

〈関東鬪腰党〉

いんだらじのがん
因達羅の蛇眼

あんちら
安底羅の猿翁

びから
毘羯羅の瞬尾

くびら
宮毘羅の猛突

〈無界の人々〉

おえま

しのめ
東雲

無界屋の女達

〈関八州荒武者隊〉

あおきち
青吉

はくすけ
白介

くろへい
黒平

あかぞう
赤蔵

きへいじ
黄平次

鬪腰党鉄機兵

服部忍群

— 第一幕 —
無界の里は救いの里

【第一景】

関東荒野。昼下がりの街道筋。

中央に古びたぼろの小さなお堂。障子も半分壊れかけている。その軒先の階段に、一人の牢人が腰掛けている。狸穴まみあな二郎衛門だ。

懐から竹包みを出す。中の握り飯を食べようとする。包みには四つの握り飯。

と、それをジツと見ている小汚い姿の百姓に気がつく。磯平いそへいだ。かなりひもじそうにジツと握り飯を見つめる。

二郎衛門 (その視線に耐えかねて) 食うか。(と、しづしづ握り飯を差し出す。かなり嫌そう)

磯平 ……へ。

二郎衛門 そんな目で見られたら食欲落ちるから。一つ持っていけ。一つだけだぞ。

磯平 ほ、ほどこしは受けねえだ。

二郎衛門 あ、そうか、無理にはすすめんが。(と、ホツとする) では……。

食べようとする二郎衛門をジツと見つめる磯平。

二郎衛門

ああ、もう。食べにくいなあ。

と、その瞬間、二郎衛門の前で猫騙しを打つ礧平。

二郎衛門

うわ！

驚いて固まる二郎衛門。その隙を突いて、竹包みごと握り飯を奪う礧平。

礧平

ほどこしは受けねえ。いただくだけだに！

捨て台詞を叫びながら一気に駆け出す。

二郎衛門

おい、待て！ おにぎり！ 儂のおにぎり!! (が、見失う) まったく、なんなんだ
……。

残った握り飯は手に持った一つのみ。

二郎衛門

……よく残ってくれた。大切にいただくからね。

と、食べようとした時、後ろから走ってきた若い女が突き当たり、握り飯を落とす。

二郎衛門

あー！

女の姿、小袖の上に鎖帷子をつけ股引きに革手甲という男装。山の民風でもある。名を沙霧さぎりという。

沙霧

気をつけろ！

二郎衛門

気をつけろって、おぬしが！

沙霧

どいて！

沙霧の行方を阻む二郎衛門。彼ともみ合う沙霧。

そこに現れる野武士の一団。

兵庫ひょうこ、青吉あおきち、白介はくすけだ。

兵庫

見つけたぞ、女。

逃げようとする側から黒平くろへい、赤蔵あかくら、黄平次きへいじ、三五さんごが現れる。いずれも派手ななり。頭目の兵庫は、背に斬馬刀のような大刀を背負っている。この頃はやりの傾奇者の一群だ。

その名も関八州荒武者隊。

兵庫

お前が沙霧だな。

沙霧

だったらどうした。

と、腰の短刀を抜く。山の民が使う厚手の両刃剣だ。

兵庫

落ち着け。妙な手向かいするんじゃない。

沙霧

やかましい、鬨闘覚め！

と、その時、二郎衛門が沙霧を斬る。

二郎衛門

でや！

沙霧

ぐわ！

倒れる沙霧。驚く荒武者隊。

兵庫

お、お前、なんてことを！

二郎衛門

（興奮している）だって、おにぎり、大事なおにぎりをこいつが……。と、泣く）

兵庫 おにぎり？ これか？

落ちていた握り飯を拾う兵庫。

兵庫 ふざけんな！

と、握り飯を投げ捨てる。

二郎衛門 あー、おにぎり！

兵庫 いい加減にしろ。握り飯ひとつと人の命。どっちが大事だ！

二郎衛門 え。(我に返り)……あ、ああ、確かにこれはひどいことをした。儂としたことが。すまない。

深く反省した風な二郎衛門。

兵庫 おう。わかればいいんだ。

二郎衛門 この娘は儂が供養しよう。どこか近くに寺はないか。

兵庫 寺？

二郎衛門 ああ、侍をやめて坊主になる。

兵庫

そこまで。いやあ、大したもんだよ、あんた。

二郎衛門

いや、まだまだ未熟。……ではごめん。

と、二郎衛門、沙霧を抱きかかえようとする。と、それを見ていた三五が止める。

三五

待て待て、どうするつもりだ。

二郎衛門

いや、余計な手出しはご無用。儂一人で抱えて行ける。

三五

歩かせればいいだろう。

二郎衛門

おいおい、死体は歩かぬよ。

三五

そうかな。

足をくすぐる三五。ヒクヒクする沙霧。

三五がくすぐり続けると、我慢できず跳ね起きる沙霧。

沙霧

うはははは。

兵庫

あー!!

荒武者隊

ああー!!

二郎衛門

あー。(しまったという表情)

兵庫

い、生き帰った!!

中島かずき（なかしま・かずき）

1959年、福岡県生まれ。舞台の脚本を中心に活動。85年4月『炎のハイバーステップ』より座付作家として「劇団☆新感線」に参加。以来、『髑髏城の七人』『阿修羅城の瞳』『朧の森に棲む鬼』など、“いのうえ歌舞伎”と呼ばれる物語性を重視した脚本を多く生み出す。『アテルイ』で2002年朝日舞台芸術賞・秋元松代賞と第47回岸田國士戯曲賞を受賞。

この作品を上演する場合は、中島かずきの許諾が必要です。

必ず、上演を決定する前に申請して下さい。

（株）ヴィレッジのホームページより【上演許可申請書】をダウンロードの上必要事項に記入して下記まで郵送してください。
無断の変更などが行われた場合は上演をお断りすることがあります。

送り先：〒160-0022 東京都新宿区新宿3-8-8 新宿 OT ビル 7F
株式会社ヴィレッジ 【上演許可係】宛

<http://www.village-inc.jp/contact01.html#kiyaku>

K. Nakashima Selection Vol. 27

髑髏城の七人 風

2017年9月5日 初版第1刷印刷

2017年9月15日 初版第1刷発行

著者 中島かずき

発行者 森下紀夫

発行所 論創社

東京都千代田区神田神保町2-23 北井ビル

電話 03(3264)5254 振替口座 00160-1-155266

印刷・製本 中央精版印刷

ISBN978-4-8460-1651-7 ©2017 Kazuki Nakashima, printed in Japan

落丁・乱丁本はお取り替えいたします